Linc リンク

つながる、看護のカタチ。

地方独立行政法人
山梨県立病院機構
https://www.ych.pref.yamanashi.jp/kiko/

令和8年度 看護師募集案内

ごあいさつ

患者さんの回復過程を促進することを目指した看護を実践します

患者さんの回復過程における「生活の質」を向上するために、看護師は24時間365日、患者さんのそばでそのサポートを行っています。看護局では、患者さんの持つ能力を最大限に引き出し、回復を促進するため、次の5つの基本的事項に沿って取り組んでいます：①起きる、②食べる、③排泄する、④清潔にする、⑤活動する。この取り組みを通じて、患者さんの生活の質の向上を目指しています。そのために、看護師はこれら5つの基本的事項から患者さんのベースラインを観察し、患者さんの変化に気づく能力を育成することを目指します。山梨県の基幹病院として、患者さんが一日でも早く、住み慣れた地域で過ごせるよう、地域と連携し、「早くきれいに治す」ことを目指して邁進してまいります。

副院長・看護局長 石倉晴美

山梨県立中央病院について（2025年4月1日現在）

病床数	644床
診療科	39科
職員数	1554人（看護師数781人）
看護体制	7:1看護

指定病院

- 地域医療支援病院
- 高度救命救急センター
- 基幹災害拠点病院
- 第1種感染症指定医療機関
- 総合周産期母子医療センター
- がんゲノム医療拠点病院
- がん診療連携拠点病院

ほか

つながる、看護のカタチ

Linc リンク

一人ひとりのチカラがリンクし
質の良い看護につながる

見て学ぶ

年間を通して様々な研修があり、充実した教育体制で、考える力が身に付きます。集合研修では、根拠を理解し、患者さんの状況に合わせたケアを学ぶことができ、成長につながります。

実践で育つ

PNS（パートナーシップナーシングシステム）で、患者さんを担当するため、疑問や不安をその場で先輩に確認できます。情報や記録など、2人でその都度確認や振り返りを行い、困った時にはすぐ相談できます。

良い看護

学びから実践を繰り返し、「良い看護」につながっていきます。そしてまた、患者さんにも喜んで頂ける質の高い看護を提供することができます。

山梨県における高度医療を提供する機関として24時間体制で患者を受け入れる施設です

高度救命救急センター

山梨県唯一の救命救急センターで、一般の病院、診療科では救命の難しい超重症の救急患者さんに対応する第3次救急医療を提供する施設です。山梨県民の生命を守る最後の砦であると考え、一人でも多くの方の生命を救えるよう日夜努力しています。

がんセンター（がん相談・通院加療）

県内の医療機関では初めてがんゲノム拠点病院となり、がん診療と遺伝診療体制を整備しています。がん相談・通院加療センターなどを備え、社会生活を営みながらの治療を支援すると共に、がんによって生じる身体や心のつらさに対しても支援しています。

総合周産期母子医療センター

総合周産期母子医療センターの指定を受けた山梨県内で唯一の施設です。NICUと連携し、合併症妊娠、多胎妊娠、胎児異常、既往妊娠・分娩で異常を認めたハイリスク症例を中心に妊娠・分娩管理を行っています。

手術室

救急患者の救命率向上を目指して、HEOR（ハイブリットエマージェンシーオペレーションルーム）とHOR（ハイブリットオペレーションルーム）を増設しています。TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）をはじめとする、より侵襲の少ない治療を可能とするために、技術・管理を学び協同しています。

入院・通院・在宅支援での　看護の関わり ～時々入院ほぼ在宅～

通院や在宅支援の関わり

看護外来の紹介

様々な疾患を持った方に対応しています

- フットケア外来
- 慢性疾患看護外来 糖尿病
- 慢性疾患看護外来 心不全
- 慢性疾患看護外来 腎臓病
- ストーマ外来
- 慢性疾患看護外来 炎症性腸疾患
- リンパ浮腫外来
- 慢性疾患看護外来 呼吸器
- がん看護外来
- 禁煙外来
- がん相談支援センター
- 腎代替療法選択外来
- 通院加療がんセンター
- 腹膜透析（CAPD）外来
- 放射線治療科
- 妊娠初期・中期・後期 保健指導
- 患者支援センター
- 助産師外来
- 母乳外来

がん相談支援センター

がん治療を受ける上での不安や悩み相談
ゲノム医療の相談窓口

患者支援センター

患者さん・ご家族のトータルな相談に対応し、支援に取り組めるような体制

- 地域連携科
- 外来在宅支援科
- 退院支援科

通院・在宅支援でも関わります

入院までの関わりと流れ

● 3次救急と2次救急

山梨県唯一の高度救急救命センターと総合周産期母子医療センターの役割をもつ当院では、市外地からの救急搬送も受け入れています。ドクターカーとドクターヘリで、救急現場から診療を開始することにより、重篤な患者さんの救命率の向上と後遺症軽減を目指しています。

自家用車（直来）・救急車

Docter-heli・Docter-car

高度救命救急センター

総合周産期母子医療センター

Docter-car

救急車

Docter-heli

● 地域医療支援の流れ

紹介状

地域の病院などから、紹介状で来院。

希望受診

紹介状がない方の希望受診も受けています。

外来

患者支援センター　入院支援科

入院が決まった患者さんの生活の様子をお聞きし本人・家族と情報を共有します入院目的に沿った説明をします

経時的な変化から患者さんの『今』を 捉え、チーム医療で退院までサポート

チーム活動

褥瘡チーム

医師、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）、理学療法士、薬剤師、管理栄養士と共に『褥瘡発生ゼロ』『褥瘡を早く治し苦痛を緩和する』をビジョンに多職種と連携して回診を行っています。病棟看護師とWOCNがOn-JTを通し、褥瘡予防のスキルアップを目指しています。

摂食・嚥下チーム

摂食嚥下障害のある患者さんに対し、摂食・嚥下機能の回復、誤嚥性肺炎や窒息等のリスクを回避した支援を行い、生活の質の向上につなげることを目的としています。安全に「食べたい」を支えるため、環境調整やポジショニング、口腔ケア方法などを各病棟のリンクスタッフと連携しています。患者さんや家族の気持ちを尊重しながら、多職種における調整役として情報共有しています。

緩和ケアチーム

緩和ケア科と精神科の医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師がメンバーとなり、入院患者さんの症状コントロールや精神的な苦痛に直接、または間接的に介入しています。それぞれの職種が意見を出し合い、より良いケアを考え提案しています。

重症化予防チーム

患者の重症化予防のために横断的に活動する、専門看護師、特定認定看護師、RRSメンバー看護師で構成されたチームです。定期ラウンドと相談対応を通して患者の早期回復と看護ケアの充実を目指しています。

On-JT／Off-JT

PNS

パートナーシップ
ナーシングシステム

2人1組となって複数の患者さんを担当するため疑問や不安をその場で先輩に確認できます。情報や記録など、2人でその都度確認や振り返りを行い、困った時にはすぐ相談できます。

On-JT/Off-JT

集合研修で根拠を理解し、病棟で先輩の説明を聞きながらケアを教えてもらえるので、患者の状況を理解し、患者に合わせたケアを学ぶことができます。

キャリアサポート

わからないことを直接聞ける場が多くあり、不安な技術は先輩と一緒に行います。段階を踏んで自立することができるので自信をもってケアできるようになります。

サポートの積み重ねが成長を実感できて自信につながる!

新人看護師の1年間のスケジュール

春	夏	秋・冬
● 新任者職員研修（全職種）「病院を知る」 勤怠・給与・福利厚生・防災 医療安全・感染対策　など ● 技術研修 バイタルサイン 輸液ポンプ　など	● 人間関係構築（宿泊） ● パートナーシップ ● 技術研修 静脈採血・インシュリン注射 摂食・嚥下、食事介助 ポジショニング 酸素療法・呼吸ケア　など ● 急変シリーズ<BLS> ● 多重課題・時間切迫 など	● 看護の魅力（事例） ● 技術評価 など

とある1日の流れ

AM 8:30
情報収集・受け持ち・患者への挨拶
情報共有を行い1日の計画を立てます。疑問や不安をその場で先輩に確認できます。

AM 9:00
検温・与薬・点滴
パートナー看護師と複数の目で確認を行うことで、安全に実施できます。

昼休憩

PM 13:30
カンファレンス
受け持ち患者のカンファレンスでは、新人看護師も意見を言いやすい雰囲気で、全員の意見を大切にします。

PM 14:00
ケア・記録
先輩の技術や声かけを側で体感できて技術習得に繋がります。ケアに一緒に入ることで情報の共有が行えます。

PM 17:15
勤務終了

自分の未来像をえがく

研修・現場で身につく教育体制

先輩看護師からのメッセージ

働いてみて良かった事

日々コツコツ頑張っています

教育体制が充実していることに魅力を感じています。PNSの制度や集合研修などで教育を行っているのを知り、互いが持つ能力を活かしながら学ぶ環境が常にあると感じました。ロボット手術など高度な医療を提供する病院で看護を実践し、生まれ育った地域に貢献したいと思い志望しました。大学時代県外に住んでいたので、顔見知りの同期がおらず就職前は不安でしたが、今は素敵な同期とも出会うことができ、日々みんなで支え合いながら仕事をしています。

働いてみて良かった事

相手の立場に立って物事を考える

病棟の雰囲気はとても働きやすく、困ったときはすぐに助けてくれる先輩方や同期がいるためとても心強いです。PNS制度により、常に先輩方と一緒に看護について考えることができるので、自身の看護感や知識・技術の向上に繋がっていると思います。また、病棟と外来が一元化されているため、入院前の生活（外来での様子）、入院中、退院後の生活まで継続した看護を提供することができることも魅力の1つだと感じています。

働いてみて良かった事

思いを大切にして、積極的にコミュニケーションを

9B病棟 緩和 病棟 ）では、一般病床と比べると病床数が少なく、患者さんの数も少ないです。そのため、患者さんと関わる時間が長くとれたり、患者さんの個別性にあったケアをできるところが、自分の理想とする看護師像と合っていて、良かったなと感じます。また病棟の雰囲気が温かく、誰にでも相談しやすいです。自分の考えを発信したときに、先輩方からのフィードバックがあるので、安心して働くことができています。

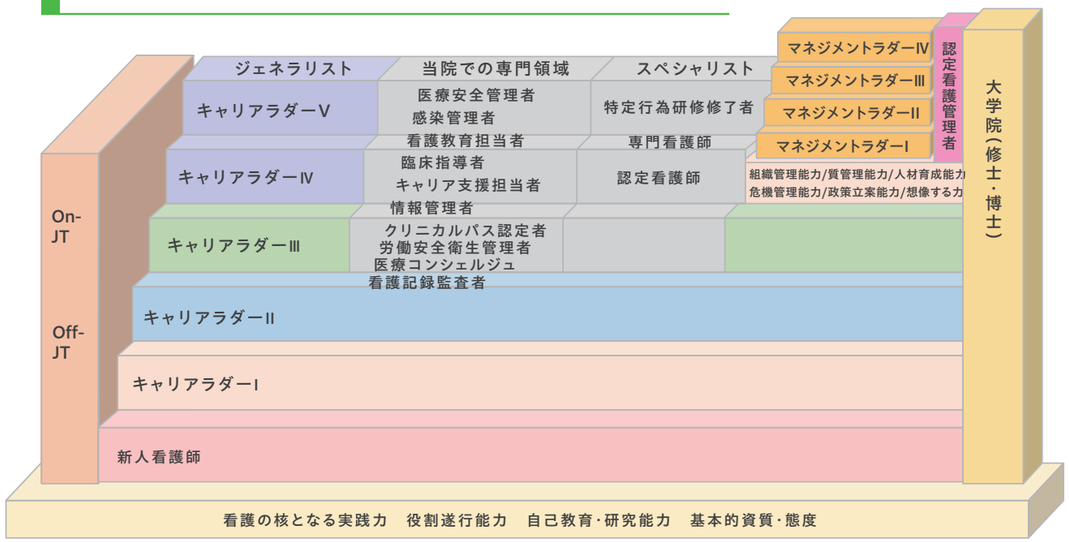
働いてみて良かった事

患者さんと家族のために

私自身、他院で4年の経験を経て既卒での入職となりましたが、自身の持つ知識・技術の再学習ができる研修も多いと感じています。また日々の看護実践の場面においても PNS 制度の採用により先輩の知識・技術を学ぶ機会も多く、自身のスキルアップにも繋がっています。患者さんのことを考えるときは対等な立場で考えを共有できるため、患者さんへより質の高い看護が提供できていると感じます。

段階的なキャリアアップでサポート

キャリアの概念図



認定看護師・専門看護師を目指す

自己のキャリアアップを目指し、成長や努力をしている看護師を積極的にサポート！ ※教育機関在学中は学費などの経済面をサポート

認定看護管理者 CNA

認定看護管理者	3名

認定看護師 CN

皮膚・排泄ケア	2名	感染管理	4名
集中ケア	1名	認知症看護	7名
緩和ケア	9名	精神科看護	2名
がん化学療法看護	2名	透析看護	1名
がん性疼痛看護	1名	糖尿病看護	1名
がん放射線療法看護	1名	新生児集中ケア	1名
慢性呼吸器疾患看護	1名	小児救急看護	1名
摂食嚥下障害看護	2名	クリティカルケア	2名

専門看護師 CNS

慢性疾患看護	1名
母性看護	1名
急性・重症患者看護	2名
精神看護	1名

特定行為研修修了者

特定行為看護師	19名

多職種と連携して安全に「食べる」を支え、喜びに繋げるために

私は日頃の看護の中から、患者さんが安全に食べるための支援をしたいと思い摂食嚥下障害看護の分野を選択しました。「食べる」ことは当たり前にでき、普段の生活の中で考えることは少ないですが、様々な理由から食べることができなくなる患者さんがいます。食べることは楽しみや生きがい、コミュニケーションの場など幸せや喜びに繋がります。しかし、誤嚥や窒息といった危険があるため安全に食べることが重要です。患者さんやご家族の「食べたい」という思いに寄り添い、医師や言語聴覚士などの多職種と連携し、安全に食べるためには何が必要なのかを一緒に考えています。

［摂食嚥下障害看護認定看護師］

魅力や気になるポイントを聞きました!

Q1 職場環境を教えてください

院内にはPCや資料を完備した図書室があり、24時間利用が可能です。また、技術の練習 ができるシミュレーションセンターがあります。

Q2 新人の離職率が低いそうですが、その理由はなんでしょうか?

PNS(パートナーシップシステム)や新人教育体制の充実に力を入れています。健康管理室やキャリアサポート室があり、相談ができる環境を整えています。

Q3 インターンシップはいつ頃行われますか?

夏休みと春休みを利用して参加できるよう、7・8月と2・3月に予定します。病院HPでお知らせしています。

Q4 配属先の希望は通りますか?

採用決定者は、事前にヒアリングの機会をもち希望をお聞きしています。可能な限り希望 を踏まえて配属先を決めています。

Q5 キャリアアップ支援はありますか?

当院では、令和４年の4月より看護師特定行為指定研修機関として研修を開始しています。特定行為看護師と認定看護師の学びについては、身分保障と学費の支援があります。(臨床経験5年以上の実務経験と所属長の推薦が必要)

Q6 男性の育児休業は取れますか?

希望がある職員は取得ができ、取得者が増えています。

Q7 他の職種との交流がありますか?

病院職員の親睦等を図る目的の「いずみ会」があり、ディズニーランド旅行やボーリング 大会などが企画され、多くの職員が参加しています。

給与・福利厚生

■ 身分・処遇等(2025年4月1日現在)

● **身分**　地方公務員

● **給料**　初任給(基本給)
大学卒　258,385円
専門3卒　254,365円
専門2卒　250,647円
※保健師または助産師免許を取得している場合は、259,792円
※看護師としての職歴がある場合は加算あり

モデル月収例	大学卒	専門3卒	専門2卒
月額	258,385	254,365	250,647
地域手当	5,942	5,850	5,764
夜間看護手当	42,400	42,400	42,400
夜間勤務手当	12,320	12,124	11,956
救急病院勤務手当	10,500	10,500	10,500
合計	329,547円	325,239円	321,267円

基本給、主要手当(地域手当、夜間看護手当×4回分、夜間勤務手当×28時間分)含む

● **手当**　地域手当、扶養手当、救急病院勤務手当、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、夜間看護手当他ボーナス(6月と12月に年間4.6月分を支給)
※住居手当:アパート等を借り受け、家賃を支払っている職員に対して手当が支給されます。(家賃に応じて手当額が異なります[支給限度額28,000円])

● **昇給**　年1回

● **勤務時間**　(県立中央病院の場合)
8:00~19:30　日中勤
8:30～17:15　日勤
16:30～1:15　準夜勤
16:30～9:00　夜勤
19:00～8:45　短縮夜勤

● **休日**　土・日・祝日・年末年始　※交代制のため、代休日を指定します。2025年度の休日123日間

● **休暇**　年次有給休暇20日(4月から3月の間に付与されます。)、婚姻休暇(5日)夏季休暇(5月から11月までの間に5日)、出産休暇(出産予定日前8週から出産後8週まで)　ほか

■ 福利厚生制度

当機構の職員は地方職員共済組合や山梨県職員互助会に入会し、療養や年金等の給付、結婚や出産の祝金、育児休業手当等が支給されます。人間ドック等の健康管理事業や住宅購入等の資金貸付があります。また、様々な福利厚生事業(全国各地宿泊施設や文化・スポーツ施設の利用補助、バスツアー)もあります。

看護職員就職支度金貸与制度

当院で看護師になられた若手職員の経済的な支援をする制度があります。(詳細は山梨県立病院機構 総務課人事・給与担当にお問い合わせください)

快適な仕事環境・福利厚生施設

● 育児支援　院内託児所があります。夜間保育、病児・病後児保育も行っており、働くパパ・ママをサポートします。

■ つながりで体制強化

基幹病院との連携

01 県立中央病院
02 県立北病院
03 県立あけぼの医療福祉センター

02

03

県立中央病院、県立北病院、県立あけぼの医療福祉センターが連携し、山梨県の医療の体制強化に努めています。3施設共に教育体制・福利厚生等、働きやすい充実した環境が整っています。

北病院「外来、入院、訪問へとチームでつなぐ。熟練した知識と技術を持つ集団へ」

「最新のこころの医療で共に回復を目指す」

北病院は精神科救急医療・児童思春期精神医療・アルコール依存症治療等、最新の医療とリハビリテーションを提供しています。また、認知症疾患医療センター、子どもの心の診療拠点病院の機能も果たしています。看護部は、患者さんの人権を尊重し、本来持っている力や強みを大切にした看護を実践しています。さらに、外来・入院・訪問・地域との連携を強化し、多職種と共に患者さんの回復促進に向けた支援を行っています。そして、こころの出前講座や教育機関への看護師派遣など、人材活用に積極的に取り組み、精神科看護師としてやりがいのある職場です。

看護部長　大木 友美

患者面接

訪問前に打ち合わせ!

外来　訪問　入院

Linc（リンク）

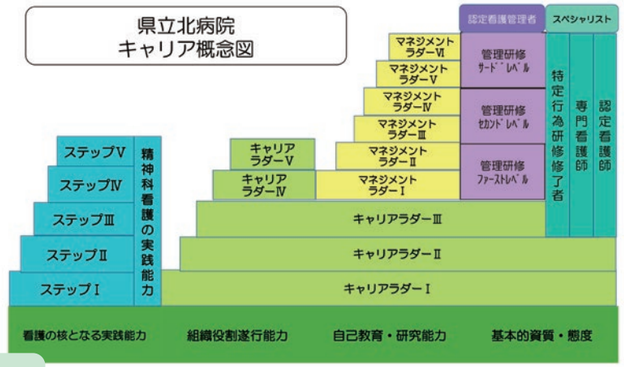
多職種カンファレンス

北病院教育システム

継続研修
- 県立病院機構研修
- 県立中央病院キャリアラダー研修
- 県立北病院キャリアラダー・ステップ研修

キャリアラダーに基づいた目標管理
- 県立病院機構研修
- 県立中央病院キャリアラダー研修
- 県立北病院キャリアラダー・ステップ研修

精神科に特化した教育体制（ステップ）
- インストラクションデザインの概念を取り入れ、主体的に学習に取り組める
- ステップⅠ～Ⅴまで段階的に学びを深める



精神科に必要な知識は集合研修で!

集合研修での学びを、日々の実践に!

技術訓練はシミュレーターを活用

地域社会への貢献①

専門・認定看護師による
地域住民を対象とした
「こころの健康教室」の開催

地域社会への貢献②

「出前授業」小学校・中学校・
高校からの依頼に対応
「薬物依存・ゲーム依存」について

当院の精神科看護

MSE
- 看護師の観察・アセスメントを多職種との共通言語に

クライシスプラン
- 患者個々の「病状悪化サイン」と「対処方法」を作成
- 患者・家族・地域支援者と共有し、地域定着を目指す

ストレングスモデル
- 患者の持つ長所や強み（＝ストレングス）を活かす支援
- 夢の実現を目指し、患者と共に計画・退院へ向けたサポート

DATA BOOK（2025年4月1日現在）

病床数　188床
診療科　精神科
職員数　220名（看護師　123名）

看護体制　1A病棟:10対1看護　2C病棟:10対1看護
1B病棟:15対1看護　1C病棟:10対1看護
指定病院　心神喪失者医療観察法入院機関、応急入院指定病院、認知症疾患医療センター 、子供の心の診療拠点病院

病院見学のご希望は▼
〒407-0046 山梨県韮崎市旭町上條南割3314-13
電話:0551-22-1621

あけぼの医療福祉センター「その人らしさを大切に、いのちの輝きを支える」

「その人らしく生きる」を支える看護

山梨県立あけぼの医療福祉センターを利用されている方の年齢は幅広く、病棟・外来・通園で医療・リハビリテーション・生活支援・発達支援を行う中で利用者の生命と人権を尊重し、その人らしく生きる支援を大切にしています。入所・在宅で生活する利用者と家族の方々が笑顔でいられるように多職種と連携し、話し合い協働しています。

看護師は、山梨県立病院機構からの派遣という形で勤務しています。看護師経験があっても重症心身障害領域の看護を習得して安心して看護ができるための教育体制を整えています。看護師として看護の力を発揮できる職場です。

総看護師長　石川文美子

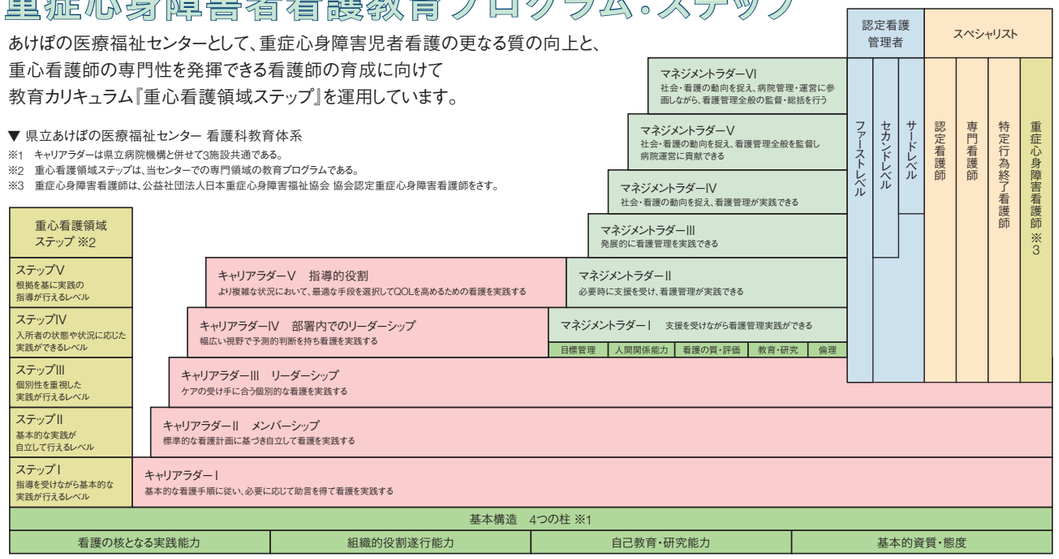
専門性を高める研修会

重症心身障害者看護教育プログラム：ステップ

あけぼの医療福祉センターとして、重症心身障害児者看護の更なる質の向上と、
重心看護師の専門性を発揮できる看護師の育成に向けて
教育カリキュラム『重心看護領域ステップ』を運用しています。

▼ 県立あけぼの医療福祉センター 看護科教育体系

※1　キャリアラダーは県立病院機構と併せて3施設共通である。
※2　重心看護領域ステップは、当センターでの専門領域の教育プログラムである。
※3　重症心身障害看護師は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会 協会認定重症心身障害看護師をさす。



重症心身障害児者看護師（日本重症心身障害福祉協定認定）
重症心身障害の看護分野における専門的知識と技術を元に質の高い看護実践活動と、指導的役割を果たしています

看護管理者

DATA BOOK（2025年4月1日現在）

入所	80人
ピッコロ	医療型障害児入所施設・療養介護
コルネット	医療型障害児入所施設・療養介護
ビオラ	医療型障害児入所施設・療養介護・入院
短期入所	定床型+日中一時支援
親子入所	2組
看護体制	障害者施設等入院基本料 10対1

通園	30人
チェンバロ	生活介護
タムタム	医療型児童発達支援センター
職員数	160人（うち看護師63人：常勤換算）
診療科目	小児科、整形外科、リハビリテーション科 泌尿器科、皮膚科、歯科
外来患者数	52人（2023年4月1日現在）

■ 病院見学のご希望は
〒407-0046 山梨県韮崎市旭町上條南割3251-1
電話:0551-22-6111

令和8年度 地方独立行政法人
山梨県立病院機構職員(看護師)募集案内

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1丁目1番1号
TEL:055-253-7111(代) FAX:055-253-8011

地方独立行政法人
山梨県立病院機構
YAMANASHI PREFECTURAL HOSPITAL ORGANIZATION
https://www.ych.pref.yamanashi.jp/kiko/